

## インド

健康な森、健康な人々、気候変動プロジェクト  
西ガーツ北部の生物多様性保全と持続可能な生計支援  
現地からのお便り

2017年5月  
Applied Environmental Research Foundation (AERF)  
コンサベーション・インターナショナル

\* 本プロジェクトは、インドの地元 NGO である Applied Environmental Research Foundation (AERF)が実施します。

### 自生種の苗畑づくり

西ガーツ北部のコミュニティが所有する森林は、伐採業者による無差別な伐採と、補助金を使ったカシューやチークの植林の拡大という危機に常に直面しています。その結果、森林の健全性が低下し、昆虫による花粉媒介や水といった生態系サービスの質が低下してきています。広い地域で保全を実施し、生物多様性重要地域間の連続性を確立するため、保全契約を通じた自生種の植林による森林再生をいくつかの場所で行う計画です。そのため、ラタナギリの Devrukh の活動拠点に二つの苗畑を作りました。1月から3月の3ヶ月間で、36種の3200本の苗を育てました。育てている苗には、経済的価値の高い樹木種や、サイチヨウやカノコモリバトなどの森林に生息する鳥たちの餌になる実をつける樹木種も含まれません。



自生種の苗を育てる苗畑

### 高燃焼効率かまどの導入

西ガーツ地域の田舎では、もっとも身近に手に入る薪が今でも一番使われており、8割の人々が家庭でのエネルギー源として薪に依存していると言われています。森林への大きな圧力であり、生物多様性の損失を引き起こしています。私たちは、廃棄物を燃料として活用する改良型かまどを開発してきました。このかまどは、煙も少なく、燃焼効率が高いことを示す青い炎を出します。かまど導

入がもたらしうる周辺の森林に与える効果を調べるため、7つの村で185世帯を対象とした調査を行いました。その結果、9割の世帯が薪を燃料として使っており、各世帯が年間で平均1.5トンの薪を消費していることがわかりました。

また、改良かまどのデモンストレーションを10の村で実施しました。私たちは、かまどを無償で配るのではなく、実際の費用から抑えた低価格であっても、村人がお金を払って購入することが大事と考えています。4つの村で50世帯がかまどを購入しました。また、25の学校で薪の利用が森林に与える影響についての普及啓発を行いました。ほとんどの学校で、給食をつくるために年間10,000ルピー（約17,000円）を薪の購入に使っていることもわかりました。



かまどのデモンストレーションの様子



薪の採集の様子



改良かまど(左)、かまどを手渡している様子(右)

### トレーニングと能力開発

前回のお便りでご紹介したように、私たち AERF は、地元コミュニティの収入の増加が期待される、フェアワイルド認証を受けています。3月の第1週、年に一度の認証の査察に先立ち、セイタカミロ balan (Terminalia bellirica) の採集者たちのトレーニングをおこないました。トレーニングは、認証査察を受ける必須条件です。国際的な認証機関の監査員をトレーナーとして招いて行われ、10名が参加しました。プレ査察も行い、査察についての理解を深めました。



トレーニングの様子

### 持続可能な生計手段

私たちは、フェアワイルド認証基準が定める手順に従い、地元コミュニティとともにセイタカミロ balan の実の持続可能な採取を実践しています。今年は、乾燥重量で 4000 キロのセイタカミロ balan の実を採集しました。

また、4人の女性達が165日、セイタカミロ balan の実の処理という仕事をしました。



セイタカミロバンの実(左)、乾燥と処理のために実を運搬中(右)



セイタカミロバンの実を乾燥させるために保管(左)、処理をする女性達(右)

2月末、フェアワイルド認証の要件として、認証を受けているそれぞれの村に 10,000 インドルピーが届けられました。



フェアワイルド認証の褒章を贈呈

## 保全契約に関するコミュニティ・ミーティング

地元コミュニティと地元リーダーの森林の重要性に対する認識を理解し、持続可能な生計手段に向けたアプローチとして保全契約を用いる森林保全や気候変動への適応の重要性について話し合うため、9つの村で会合をひらきました。これらの村は、AERFによるこれまでの保全活動に参加した村、ecological sensitive area notification by MOEに含まれる村、あるいは村の中に原始的な森林や保全価値の高い森林がある村です。



村のリーダーとの議論



村の代表たちとの会合

## エピソード

2月の第一週、ダイキンからの参加者を迎え、プロジェクトの開始を祝うイベントを開催しました。イベントには、6つの村から集まった約100人のコミュニティメンバー、環境に携わる関係者や政府職員が参加しました。

イベントでは、地元コミュニティの森林に対する意識や保全契約に関して議論する重要な場でもありました。ダイキンの皆さんに西ガーツ北部の景観、人々、そして文化を知っていただけたと思います！



ダイキンの皆さんの訪問の様子